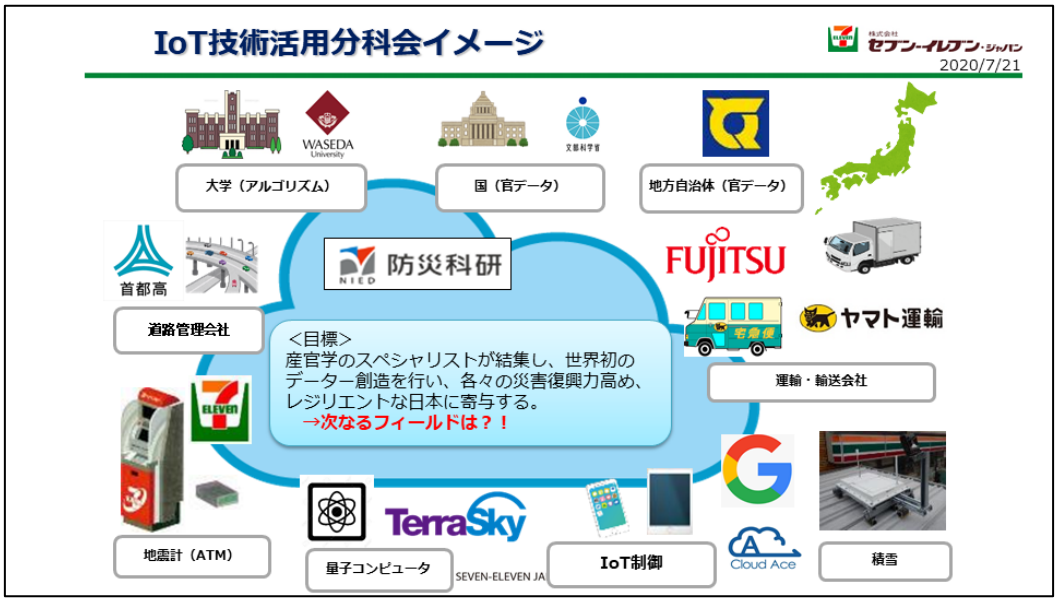
第 2 部　グループセッション
「共通テーマ部会 A における分科会が果たす役割」
【IoT 技術活用分科会】
西村　出（IoT 技術活用分科会 会長/株式会社セブン-イレブン・ジャパン システム本部 副本部長）

IoT 技術活用分科会の会長を務める株式会社セブン-イレブン・ジャパン システム本部副本部長の西村出氏は、同分科会の目的について、各ステークホルダーが大規模災害時に必要なデータを IoT で利活用できるよう、減災・レジリエンス向上に寄与する基盤を、最新の技術を使って構築しようとするものと説明。既に、地震計や積雪計などで気象災害を予報・予測、シミュレーションする実験も行っており、最終的には、そうした基盤と技術を、災害時に国のプロジェクトマネジャーとなる自治体や官庁との連携体制の中で活用できることを目指すとの考えを示しました。

西村氏は、同分科会の前段となる取り組みとして、セブン-イレブンと防災科学技術研究所の積雪に関する実験を紹介。セブン-イレブンの店舗に積雪計を設置し、実際の積雪に対して、防災科学技術研究所の技術による読みの精度を測る実験を続けていると説明しました。また、揺れに関する取り組みでは、セブン銀行、防災科学技術研究所、セブン-イレブン・ジャパンの 3 者による産学連携も紹介。防災科学技術研究所の高精度な小型地震計をセブン銀行 ATM に設置し、より正確な震度を測定し、収集した詳細なデータを使って防災・減災につなげるものと説明しました。

今後の取り組みについて、西村氏は、技術的基盤を提供する Cloud Ace、Quemix、Terra Sky、トラックデータを保有する富士通、ヤマト運輸、それらを災害時に活用する徳島県との連携による、災害時の IoT データ活用に向けた取り組みや、災害時における状況のシミュレーションを実際に行っていることも紹介しました。

一方で、西村氏は、これらの取り組みが「電力ありき」のものであることから、今後はスマートシティに取り組んでいる自治体や商社などとも連携しながら、大規模なブラックアウトが起きても災害対策が可能な取り組みを進める考えを示しました。